

## ビジョン連携推進会議第三分科会 第2回 開催概要

日時	平成26年11月4日(火)
テーマ	観光まちづくり
臨時構成員	昭島観光まちづくり協会

### 議事要旨

#### ○ 昭島観光まちづくり協会設立の経緯

- ・ 昭島観光まちづくり協会（以下、「協会」という。）は、市民、民間企業の参加を得て、昭島市で観光事業を展開している団体である。
- ・ 平成19年3月、昭島市では、市が作成した「産業振興計画」において「観光」分野への取組について初めて言及し、これ以降、観光業の振興を積極的に推進していくこととした。
- ・ 本計画に「観光」を位置付けるに当たって、昭島市が自市の観光事業に対する分析を行ったところ、市内には、豊富な水資源、神社仏閣を始めとする文化財、昭和記念公園などの観光資源があるものの、こうした資源が統一された情報として発信されていない点が明らかになった。
- ・ こうした分析を踏まえ、平成20年秋以降、有識者、産業関係者、行政の産官学による検討を重ね、基本コンセプトとして、①集積する「各種産業」の活用、②「着地型観光」の実践、③「民間事業者との協働」の3点を決定した。
- ・ 推進団体は、意思決定の迅速さや経営を重視して、行政とは切り離れた組織として整理することとし、「検討会」「設立準備会」を経て、平成23年2月1日に本協会が発足した。

#### ○ 昭島観光まちづくり協会の取組

- ・ 協会では、「まちづくり」を、地域にある価値の共有、地域に対する愛着の形成と定義づけ、こういった、いわゆる「心のまちづくり」を進めていくために、地域を知る、地域に関心を持つ、地域価値を再発見する、ための仕掛けを作っていくことを目指して、様々な取組を展開している。
- ・ 設立直後の平成23年4月1日には、地域の魅力や情報を発信する場として、観光案内所を開設した。観光案内所では、地域の案内、地域特産品の販売を行うほか、展覧会や写真展等のイベントを実施することなどを通して、観光に関する情報発信の一元化に努めている。
- ・ 「着地型観光」の実践としては、毎月1回程度の割合で「町あるき」を実施している。「町あるき」では、参加者が、地域に埋もれているものやあまり人に知られていないものに接することを通して、地域の価値を再認識してもらうことを目的としている。
- ・ 「町あるき」のコースは、農業、航空機産業などの、昭島市内に根付いている（た）産業を一定のテーマのもとにつなぎ合わせて巡ることができるように意図しながら設定している。また、例えば、日本初の国産ジェットエンジン「ネ20」など、一般非公開となっており個人レベルでは見学することが出来ない場所を盛り込み、参加意欲を高めるような工夫も行っている。
- ・ さらに、コース内に市内の製菓店を盛り込み、地域経済に効果を及ぼすように努めることで、協会と地域の商店との間の信頼関係の構築を図っている。
- ・ また、「町あるき」を市民が主役のイベント、市民みんなで共有できるイベントにするため、市民に、町の案内役「市民ナビゲーター」を担ってもらっている。協会では、市内にある道や施設の由来、歴史などについての研修を行い、市民ナビゲーターの育成に努めている。

- ・ 現在、資源（町の見どころ）の有効活用や今後の広域連携を見据えて、立川市、福生市などの近隣市との共同イベントの開催を計画している。
- ・ 「フォトコンテスト」は、カメラというツールを用いて、①新たな視点による地域資源の再発見、②地域知名度の向上と賑わいの創出、③地域価値の向上、を目的として実施している。
- ・ また、撮ったものに付加価値をつけるため、入選作をカレンダーにして有償販売を行っている。さらに、カレンダーには、昭島市の基本情報と市内地図に入選作の撮影ポイントを入れた「フォトコンテスト撮影マップ」を掲載し、昭島市や入選作の撮影ポイントへの来訪を企図している。

#### ○ 新たな観光資源開発への取組

- ・ 協会では、既存資源の再発見にとどまらず、既存資源のリメイクや全く新しい資源の開発による「新たな地域ブランド」の創出を通じた、地域住民の地域に対する関心と愛着の育成と、来街者の増加を目指した取組も進めている。
- ・ 既存資源をリメイクして実施している「あきしま郷土芸能まつり」は、平成 20 年に企業の地域貢献事業として地元企業が始めた「あきしま昭和の森郷土芸能祭り」を前身としており、平成 24 年に協会が運営を引き継いでいるものである。この祭りでは、「郷土芸能に特化したまつり」として他のイベントとの差別化を図り、賑わいの創出と集客を目指している。将来的には、近隣各地の郷土芸能団体が出演を目指す「郷土芸能の甲子園」に発展させたいと考えている。
- ・ また、全く新しい観光資源の開発として、『『クリケット』のまちづくり』に取り組んでいる。クリケットは、日本での競技人口は少ないが、世界的にはメジャーなスポーツであり、昭島ならではの国際的なスポーツとして定着を図るべく、国際クリケット評議会・日本クリケット協会・昭島市・協会の四者間で協定を締結し、普及啓発に取り組んでいる。
- ・ このほか、「ロケーションサービス」を通して、新たな分野の観光資源化と、協会の収益確保に努めている。この活動は、地域に直接的・間接的な経済効果をもたらすことも期待している。

#### ○ 多摩地域での観光まちづくりの展開に向けて

- ・ 今日の人口減少社会、少子高齢社会においては、地域住民同士の交流や他地域からの交流人口の増加を課題と捉えている自治体が数多くあり、観光に対する問題意識は非常に高い。
- ・ 多摩地域には必ずしも観光資源に恵まれているとはいえない地域が多くある中で、協会の取組は、既存の地域資源に光を当ていかに観光資源として活かしていくか、に焦点が当てられており、大変参考となるものである。
- ・ 地域資源を再発見するためには、視点を変えて地域内を見直すこと、個々の資源を単純に並べるのではなく、何らかの関係づけをしてつないでいくこと、などが有効である。
- ・ 展開する事業は、地域のためになっているか、という点に着目して進めていくことが必要であり、関わる全ての人々が利益を得ることが出来るものとなっていることが重要である。そのためのポイントは、企画に奥行きを持たせる、ということである。一つの企画を実施するにしても、次のステップ、さらにその次のステップを考え、多面的に企画を積み重ねていくことが重要である。
- ・ 地域資源の発掘や内容に厚みのあるイベントを展開するためには、情報やネットワークを多く持っていることが大変重要であり、日ごろから広くアンテナを張っておく必要がある。
- ・ 多摩地域は区部とも神奈川、埼玉、山梨県ともつながっており、交流人口の増加を図るためには、市域を超えた広域的な連携が有効である。しかし、行政は域内への利益の還元を第一に考えるため、他地域との連携を進めるためには、民のフットワークを取り入れることも有効である。